

# 博識まさとの沖縄レポート

2013年9月29日～10月2日まで、湘南支部の奥平昌斗が、

修学旅行で沖縄に行った際、現地の植生調査を行いました。

沖縄と言えば、**拝所(うがんじゅ:崇拝所)**、**御嶽(うたき:聖地)**です。

神社の鎮守の森と同じく、多くの森が残っている場所です。

1日目は首里城へ行き、3日目に南城市の御嶽へ2か所行きました。

南城市は、東御廻り(あがりうーまい※)のルートがあるために、

沖縄本島の中で一番御嶽が多い場所です。



首里城のガジュマルの木



デイゴ



僕は沖縄の  
クォーター！  
沖縄にて、  
はいさい！  
(こんにちは)

アカギ(赤木)

**感想** 湘南と植生が全く違ったので、気候の違いを感じました。街路樹は、**アダン**、**タコノキ**、**トックリヤシ**等が植えられていました。バナナやパパイヤが普通の家の庭にも生えていました。2日目は海のも行きましたが、ここも湘南と大きく違いました。白いサンゴ質の砂で体にくっつきませんでした。海の色が透明度がとても高く、底まで見えました。シュノーケルをすると、青い熱帯魚のような魚を観ることができました！日本って北は針葉樹から南はマングローブ。標高も高いところがあって、本当に世界的な生態系の縮図だなと思いました。

クワズイモ がかいけど、  
食べれない！ショック！



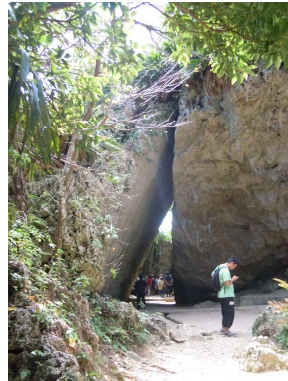
※東御廻り: 沖縄民族の祖先《アマミキヨ族》が住み着いたと伝えられる知念・玉城の霊地巡排行事です。首里城を中心に、大里・佐敷・知念・玉城を「東方(あがりかた)」と呼んだことから、そう呼ばれました。

# ① 斎場(せーふあ)御嶽

斎場御嶽は15世紀～16世紀の琉球王国・尚真王時代の御嶽であるとされ、琉球王朝時代に王府が整備した国家的な宗教組織との関連が深く、「せーふあ」とは「最高位」の意味で、「斎場御嶽」とは「最高の御嶽」の意味で通称です。正式な神名は「君ガ嶽、主ガ嶽ノイビ」といいます。王朝時代は、国家の最高神職である間得大君が管理し、間得大君の就任儀式「御新下り(おあらおり)」が行われた御嶽でもあります。



久高島遥拝所



蔓(つる)性の植物が多いように見えるが、実は木の根。岩の上に木が生えているのだ。

鳥がフンをしたところに生えてくる。湿度が高く、岩が多孔質なために(空気の通りが良い)、木はそれでも生きているのだ。

# ② 場天(ばてん)御嶽

ここ「イビの森」内には、元々新里の氏神を祀った「イビ御嶽」がありました。1959年の大雨による地滑りで大被害を受け跡形もなく失われた場天御嶽や、上場天御井戸・下場天音井戸(佐銘川大主の住居跡内にあった井戸の拝所)、伊平屋神(ヤマトバンタ)、御天坐神(天の神へのウトシ)がここに移築されてきました。イビの森は南国的な森が深く、とても清浄な感じがする、聖地に相応しい場所でした。



イビの神木



イビ御嶽



東御廻りコース(14カ所)